



産官学連携による日本酒産業のDX

(デジタルトランスフォーメーション)

～GI YAMAGATA売上倍増に貢献する、 山形大の成分/微生物/味覚解析技術と酒オンタップの協創～

【本件のポイント】

- 山形大および地域との連携による日本酒流通のイノベーションを目指し起業した酒オンタップ山形を有機材料システム事業創出センターに誘致した。(2020年6月)
- 山形大(農学部、工学部、理学部)と酒オンタップ山形の共同研究における、日本酒の成分・微生物・味覚データ解析および独自のプラットフォーム「酒オンタップ」を用いたデジタルトランスフォーメーションにより、日本酒の嗜好性、熟成度等を可視化し、山形県産日本酒等の販売拡大、付加価値向上に活用する。
- 山形県の伝統的な産業である日本酒のDX化について、コロナ禍を乗り越え、更に拡大させるための活動を県内の産学官が一体となった体制を構築し取り組む。



【概要】

山形大学と山形大学有機材料システム事業創出センター内を本社として設立した「株式会社酒オンタップ山形」は、山形県の伝統的な産業である日本酒の流通におけるイノベーションにより新規需要創出や付加価値向上を目指し共同研究を開始した。

酒オンタップ山形の独自の日本酒に特化した世界初のオムニチャネルデジタルプラットフォームを通じて把握する消費者のテイスティングによる情報と、山形大学の農学部を中心に工学部、理学部を含めた幅広い研究シーズを活用した、日本酒の成分に関するメタボローム解析(農学部 及川彰教授)、微生物の酒質への影響の解析(農学部 小関卓也教授)、味覚センサーによる解析結果(学術研究院理工学研究科 野田博行准教授)をAIやビッグデータを用いた分析と組合せ、日本酒をマーケティング視点で分析する。

国際事業化研究センターの小野寺忠司センター長・教授による、外部の技術とのマッチング、販路やビジネスパートナーの紹介、ビジネスプランに対する助言等も受け研究成果を活用することにより、酒オンタップ山形では、新たな生活様式やデジタル技術の進化に対応した新しいスタイルの飲み方や流通の創出に結びつけ、10年以内1000億円の日本酒新規需要創出や品質向上に伴う日本酒価格の倍増などを目指していく。

今後は山形県、山形県酒造組合、関連機関・企業等との協力体制に参画し、GIにも認定されている、世界に誇る山形県の日本酒産業の発展に貢献していく。

【背景】

山形県の伝統的な産業である日本酒業界は、1973年以来国内消費量の減少が止まらず、ピーク時の1/3以下まで落ち込んでおり、輸出は増加傾向であるが全体の3%程度に留まっている。新型コロナウイルスの感染拡大が更に追い打ちをかけ、飲食店向けを中心に国内出荷が更に減少しており、特定のブランドが確立された酒蔵・銘柄以外の、低収益の酒蔵は事業継続が困難となることが懸念される。

山形県では山形県酒造組合(民間)と山形工業技術センター(行政)が連携し、醸造技術と人材育成等を推進し、県独自の酒造好適米「出羽燦々」「雪女神」等の開発やオープンな酒蔵同士の交流による共同醸造プロジェクト「山川光男」を推進し、山形県として日本酒の「GI」に認定されている。

その世界に誇る山形県の日本酒は国内におけるシェアは現状2%未満であるが、県内の7割の酒蔵が輸出しており、東北では一位の輸出量を誇っている。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【山形大と酒オンタツ山形の共同研究】

山形大では、甘未指標である Brix、味覚センサー分析値の酸味と旨味コク（後味）を用いた日本酒のクラスター分け（野田准教授）、メタボローム解析における 100 種以上の日本酒成分の含量を網羅的に明らかにすることによる、これまでと異なる視点での日本酒の分類（及川教授）、日本酒成分に及ぼす麹・蔵付き酵母の影響の解析（小関教授）等を行い、今後、酒オンタツより取得する消費者データとの相関により、個人・地域の嗜好性や料理に合わせた日本酒の生産・販売などを可能とすることを目指していく。

酒オンタツではページビュー、購入実績、SNS でのフォロワー・いいねだけでなく、専用アプリを通じて「好き・嫌い」「甘い・辛い」「芳醇・端麗」「フードとの相性」等のティスティングデータを取得し、一人一人の「好み」に応じた日本酒を AI によりリコメンデーションする機能をもつ。また、メタボローム解析、味覚センサー分析、麹・蔵付き酵母などの微生物検査をビックデータに加えることで「売れる酒の特徴をデータ化すること」で県別シェアで 2%未満に留まっている山形県の日本酒シェアを酒オンタツでは 30%に高めることで、“YAMAGATA を日本のシャブリとする”ことを目標とする。

【酒オンタツ山形の概要】

会社名 : 株式会社酒オンタツ山形
設立 : 2020 年 1 月 10 日 (株式会社フルードジャパン) 決算月 : 12 月
2020 年 6 月 10 日 (社名変更・本社移転・目的変更)
本社所在地 : 山形県米沢市 (山形大学有機材料システム事業創出センター内)
代表 : 山田 哲夫 代表取締役
東 範男 代表取締役 (株式会社 LCC トレーディング代表 在シンガポール)
資本金 : 5 百万円

お問い合わせ

・株式会社酒オンタツ山形 取締役 神田 翔吾
TEL 080-8214-3303 メール s.kanda@sakeontap.jp
・国際事業化研究センター
コーディネーター 齋藤裕一
TEL 0238-26-3025 メール ysaito@yz.yamagata-u.ac.jp